

三木家の邸宅は 1655 年に福崎に到着した地元役人の住まいであった。その組み合わさった住居の最も初期の建築物は 1697 年にさかのぼり、建築は次の 200 年にわたり段階的に続いた。1874 年に正門と南側の壁は、新しい「銀の馬車道(銀山の馬車道)」(現在は銀の馬車道として知られている生野鉾山寮馬車道) の建設をするために移転された。

その屋敷はさまざまな安全性を持って建てられた、例えば引き戸にある木製の鍵、刀を振り回すのを防ぐ低い天井、緊迫した会議中警備員が見張をするための多くののぞき穴があった。1871 年、明治政府の政策変更に対抗する地元民が屋敷を襲い、木にある切り傷は今もカミノマの会議室に見ることができる。

1972 年、三木家の邸宅は兵庫県の重要文化財に指定された。2010 年から 2016 年にかけて、大幅な改修の努力があり、できるだけ多くの元の材料を再利用して、正面の事務室と生活空間は以前の状態に復元された。